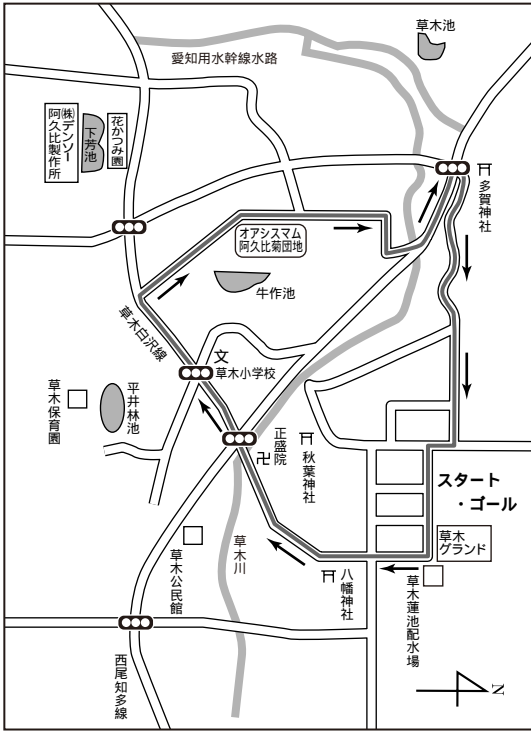


シリーズ 阿久比を歩く ⑥4



正盛院仁王門

十月十三日、町青少年健全育成地区推進員連絡協議会主催の「ふれあいハイク」に友人二人と参加した。コースは「ふれあいマップ」花かつみコース（花かつみ園は花の開花時期でないためコースから外れる）の短縮バージョン。
午前八時半、集合場所の草木グラウンドで受け付けを済ませる。ゼッケンと記念品のボールペンをもらう。記念品を手にして喜ぶ友人の笑顔は

あぐいぶらり旅
ふれあいまっぷを歩く（ふれあいハイクに参加①）

隣にいた小学生と同じくらいにまぶしい。途中でリタイヤしないように足首を回し、アキレス腱を伸ばす。準備万全、いざスタート。
草木蓮池配水場の前を通り農道を歩き、八幡神社の前を横切る。田んぼには刈り取った稲が「はざ」に掛けられる。柿の木の実が色づく。のどかな秋の風景が広がる。風に流れてくるキンモクセイのにおいが心地いい。家族で参加した親子からは楽しそうな笑い声が聞こえる。
第一チェックポイント正盛院が見えてきた。参道入り口でクイズラリーの問題が出題されている。正盛院には町指定文化財の仁王門（一七五二年建立）と仁王像（室町時代初期の作と推定）がある。
仁王像の身長を問うクイズだ。ふれあいハイク参加者が仁王門の中に収められた仁王像をのぞきこむ。大きく目を見開いた二体の像が私たちをにらみつける。「答え分かった？」と友人に尋ねる。「おばさんがの百八十五センチだと話していたのが聞こえ



ふれあいハイクを楽しむ参加者

てきたので にしようかなと思えます。「そうなの。僕は の百六十五センチにするよ。」阿伴の呼吸で門番を務める仁王像の前で意見の全くかみ合わない二人である。（正解はの百七十五センチ）
正盛院境内はイチョウの木から落ちた銀杏の独特なおいが広がる。「炒って食べるとおいしいんだよ。お父さんのビールのおつまみにしようかな」と女性が落ち葉の中から銀杏を拾う。腰を下ろして休んでいると旗を持った先頭が再び歩き始めたので後に続く。
草木小学校を過ぎたところで、友人が参加賞のボールペンを手に持つて何やら紙にメモをする。そつとのでいて見ると「柿」という文字が書かれてある。「何書いてるの」と聞くと「秋をテーマに俳句でも作るうかと思ひまして」「へえ・・・。期待してるから」。（その後友人の句は「柿」から全く筆が走っていないかった）
次回へつづく。